

プレスリリース

令和6年7月17日

国立研究開発法人水産研究・教育機構

株式会社オーシャンアイズ

KDDI 株式会社

持続的な漁業生産活動の実現に向けて

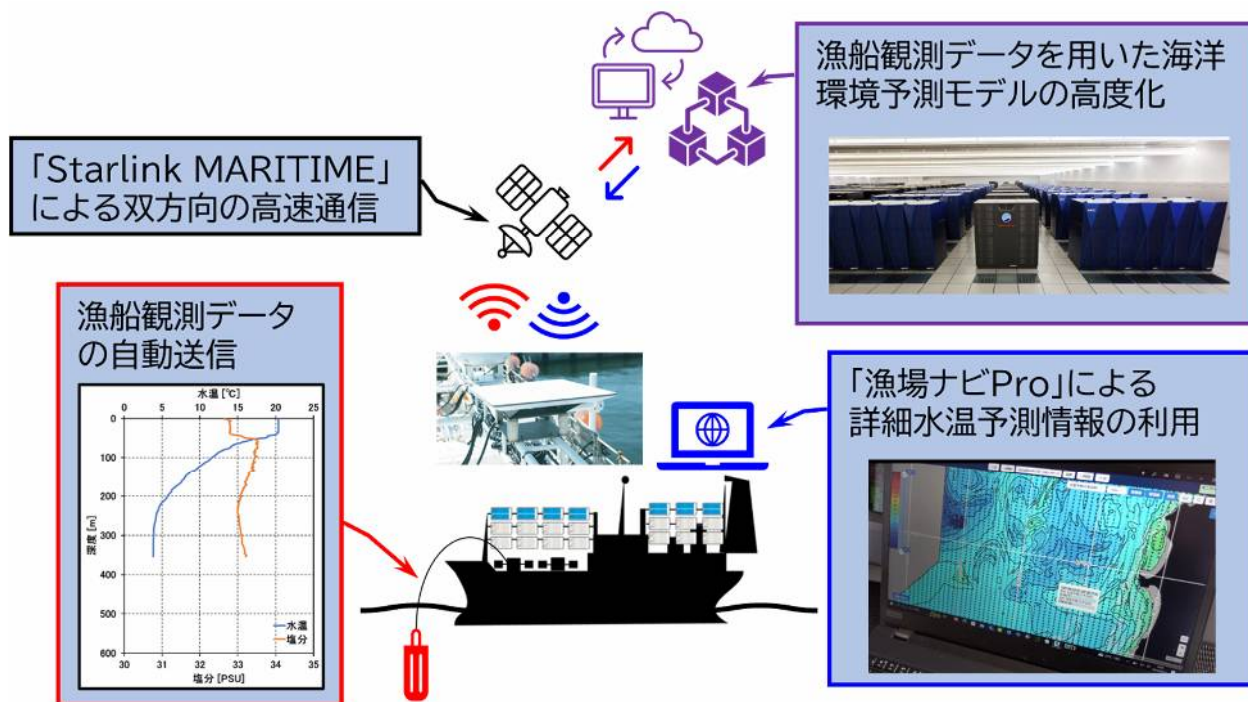
漁船での衛星ブロードバンド「Starlink MARITIME」を利用した漁業のスマート化を促進させます

- ・ Starlink MARITIME を利用した小型いか釣漁船による洋上海洋観測体制を構築。
- ・ 漁船観測データで高度化した海洋環境予測モデルの活用で操業の効率化に貢献。

近年、様々な種類の漁船漁業において、漁業の効率化や持続的な漁業生産活動の実現を目指し、先端技術を活用したスマート化の動きが盛んになっています。ただし、漁船の通信環境によっては、通信エリアや通信容量に大きな制約があり、このことがスマート化推進における課題でした。このような中、KDDI が提供する衛星ブロードバンド通信である「Starlink MARITIME」の利用可能エリアが本年 2 月から領海外にまで拡大したことで、沿岸から遠洋で操業する多くの漁船での利用可能性が高まり、その高速通信を活用した漁業のスマート化への応用範囲の拡大が期待されています。

国立研究開発法人水産研究・教育機構と KDDI 株式会社の共同研究では、「Starlink MARITIME」を小型いか釣漁船に搭載し、漁船という特殊な環境下でも高速ブロードバンド通信が実現することを確認し、導入効果の検証を進めています。同じく、国立研究開発法人水産研究・教育機構と株式会社オーシャンアイズが実施する共同研究では、漁船の操業活動で得られる豊富な水温・塩分データ等を用いることで、漁場を知る上で非常に重要な海洋シミュレーション技術の高度化を図り、海洋環境予測モデルの精度向上をもたらすことを検証しています。

2 つの共同研究による取り組みは、漁船漁業のスマート化を目指す中で同じ将来像を見据えたものであり、融合した取り組みを行うことで相乗効果が期待できます（付図参照）。現在は、三者連携の取り組みとして、「Starlink MARITIME」による高速通信の利用で株式会社オーシャンアイズが提供する漁業者支援サービス（海洋環境可視化ツール）である「漁場ナビ Pro」を、沿岸から約 37 km 離れた小型いか釣漁船内でスムーズに使用可能であることを確認しました。今後は、小型いか釣漁船で観測した水温等のデータを「Starlink MARITIME」を用いて迅速に海洋環境予測モデルに反映し、その結果を素早く漁船漁業の操業に活用します。将来的には、この取り組みは漁場形成予測の高度化に繋がり、漁場探索時間の短縮化による燃油消費量・CO<sub>2</sub> 排出量の削減などをもたらすことで、持続的な漁業生産活動に貢献するものと考えられます。



付図 小型いか釣漁船におけるスマート化の将来像

本件照会先:

- ・国立研究開発法人水産研究・教育機構 開発調査センター 漁業第三グループ 加藤慶樹 TEL:045-277-0184
- ・株式会社オーシャンアイズ (問い合わせ先) email:[info@oceaneyes.co.jp](mailto:info@oceaneyes.co.jp)
- ・KDDI株式会社 KDDI 法人営業担当者または法人お客さまセンター  
(問い合わせ先) 0077-7007(無料)、0120-921-919(無料) 受付時間:9時~18時(土・日・祝日・年末年始を除く)